肺原発が考えられた悪性黒色腫の 1 例

◎宍戸 ひろ美[1)]、西浦 舞子[1)]、長澤 千鶴[1)]、鈴木 郁恵[1)]、遠藤 輝美[1)]、村上 今日子[1)]、増子 洋子[1)]、佐々木 理恵子[1)]
一般財団法人 太田綜合病院附属太田西ノ内病院[1)]

【はじめに】悪性黒色腫は、多くの場合皮膚より発生し、肺原発の悪性黒色腫は極めて稀である。肺腫瘍全体の約 0.01%とされる。今回我々は、肺原発が考えられた悪性黒色腫の１例を経験したので、文献的考察を加え報告する。

【症例】77 歳、男性。２週間続く咳嗽で近医を受診。レントゲンにて右中肺野浸潤陰影を指摘され、肺炎もしくは肺癌疑いにて当院紹介となった。喀痰細胞診で未分化な悪性細胞を認め、悪性黒色腫が鑑別に挙げられた。その後、気管支鏡での精査で肺生検には悪性細胞は認めず、BALF の細胞診に喀痰同様の悪性細胞を認めた。その後、右肺上中葉を切除し、悪性黒色腫と診断された。

【細胞所見】喀痰：核中心性～偏在性で、核縁の肥厚やくびれ、クロマチンの濃染、凝集が見られ、中に核小体が目立つ細胞が見られた。細胞質は淡く、類円形～多辺形、紡錘形など不整形を呈し、二核や多核細胞が見られた。結合性に乏しく、細胞質に茶褐色の顆粒を有するものが目立った。未分化な悪性細胞で悪性黒色腫が鑑別に挙げられた。BALF：喀痰同様の悪性細胞を認めた。セルブロックを作製し検討した結果、褐色顆粒を有する細胞の顆粒は Fontana-Masson 染色に反応、Fe 染色陰性でメラニン顆粒が考えられた。また異型細胞は免疫組織化学で HMB-45、Melan-A に陽性を示し、悪性黒色腫由来が疑われた。

【組織所見】核腫大、クロマチン増量、核小体の明瞭化を示す腫瘍細胞がゆるい結合を示し充実性に増殖していた。肺胞壁を置換するように、または肺胞腔内を埋めるように腫瘍細胞が増殖する部分も見られた。これらの細胞は免疫組織化学では S-100 陽性細胞は少数だが、Melan-A、HMB-45 に多数陽性を示し、悪性黒色腫が考えられた。junctional change がみられ、肺原発としても矛盾しないと考えられた。

【まとめ】本症例は悪性黒色腫の既往歴はなく、単発の肺腫瘍で肺腫瘍切除時の PET-CT 検査で肺以外に骨転移があるのみで他の部位に転移病変を認めない事、また組織学的に junctional change を認める事から肺原発の悪性黒色腫の可能性が高いと考えられた。また、細胞診では茶褐色の顆粒に注目する事により悪性黒色腫を鑑別に挙げることが出来た。

連絡先 024-925-1188（内線 31230）